

活動レポート

技術者のミライ研究委員会

文責：技術者のミライ研究委員会 幹事 寺西一也

インフラ映えをめざせ！ミライの技術者に向けて 「技術士を知ろう！ in 北海道科学大学」

1. はじめに

「技術者のミライ研究委員会」(ミライ研)にて運営等を担当している「技術士を知ろう！」ですが、平成 30 年度の活動第 1 弾は、平成 28 年度から講演を行っている北海道科学大学にて実施しました。今回も青年技術士交流委員会(青技交)の連携・協力を得て、実施しています。

今回の講演は、参加幹事 9 人でミライの技術者に向けた“出前講座”を実施しました。



写真-1 冒頭の概説を行う小澤代表

2. 実施概要

開催日時：H30.5.24(木) 13:00～14:30

講義内容：技術士について

技術士の仕事内容と役割(講演 2 編)

土木全般の仕事紹介

対象者：北海道科学大学都市環境学科 計 49 名

1 年生 40 名、3 年生 9 名

参加幹事：小澤、木本、平岡、仁田、寺西(記)

(ミライ研 5 名)

中前、密山、仁義、堂領(青技交 4 名)



写真-2 OB として熱く語る密山技術士(青技交 幹事)

3. 技術士について

小澤代表より、技術士資格の説明として、技術士の役割、資格取得方法、持つことのメリット等を説明したほか、社会人になってから仕事をする上での資格取得の重要性等について説明を行いました。

すでに技術士を目指す学生がいたことで、小澤代表のやる気スイッチが“ON”し、解りやすく、かつ、学生たちのモチベーションが上がる講演となりました。また、同年代の技術士補合格者の事例などの紹介を行い、さらに学生のモチベーションも上がり、12 月 13 日の合格発表が楽しみです。

4. 技術士の仕事内容と役割

(1) 技術士の仕事(密山技術士)

具体的な仕事内容の紹介は、まず北科大(旧道工大建築学科卒)OBの密山技術士から、コンサル(橋のメンテナンス)の仕事の講演を行いました。密山技術士は、建築学科を卒業し学生時代に勉強した構造やコンクリートの知識を活かし土木(橋梁メンテ)で活躍している技術士です。橋のメンテナンスは、品質レベル確保、効率化等するためにマニュアル化されていますが、マニュアルに無い課題解決方法を、自身が経験した仕事として紹介しました。また、橋

の経年劣化の外的・内的要因の紹介や経年劣化の原因に対する解決方法(対策工)について、事例写真や図・表を基に学生にもわかるように丁寧な説明を行いました。講演の最後には「これからの大学生活に向けて」と題して、「ミライの技術者」になれる「メッセージ」をOBならではの視点で語り掛け、学生たちの視線を集めました。

(2) 建設会社の仕事と技術士補(仁義技術士補)

続いて清水建設(株)に所属する仁義技術士補より、自身の担当してきた現場での仕事と、土木技術者を目指したきっかけなどを紹介しました。ゼネコンならではのスケールの大きい仕事で、専門的な話になりがちのところ、学生たちにも伝わるように、図解やアニメーション等を加えながら「明かり部」トンネル工事の施工サイクルを説明。また、女性技術者としての働き方の紹介やライフイベント制度の紹介など、土木業界の魅力が女子学生たちにも伝わったのではないかと思います。



写真-3 女性技術者の仁義技術士補(青技交 幹事)

(3) 土木の仕事全般の紹介

講演最後は、木本技術士より土木の仕事全般を対象に、2人の講演で紹介しきれなかった土木の仕事を写真で紹介しました。「街づくり」を「土木の仕事」に関連付けし、様々な仕事があることを知ってもらい、学生たちが自分の将来を考える機会となる仕事紹介でした。まだ漠然としてしか自分の「専門」を意識できていない1年生、これから就職等の進路を考える3年生には、これから自分が進むべき「ミライの技術者」のイメージが描けたかと思います。



写真-4 土木の仕事全般の紹介を行う木本幹事長

5. 質疑応答

木本幹事長の進行で参加メンバーが学生からの質問に回答する質疑応答。ここは、各プレゼン終了後、学生の皆さんにそれぞれのプレゼンターに対しての質問を記入していただき、回収、何問かを抽出して回答する形で実施しています。講演後の感想には、技術士(補)を目指します、勉強して一発合格など、学生のモチベーションが上がっていました。また、仕事紹介事例の技術的な内容にかなり踏み込んだ質問も出たほか、「20代」の幹事も参加したことで、就職後の職場の雰囲気や苦労したことなど、比較的身近な質問も多く寄せられました。

6. まとめ

学生からの感想には「技術士について理解が出来た」、「技術士を取得したくなった」等の技術士取得の動機となるようなキーワードが多くありました。

アンケートでは、47人中34人が「技術士を今回初めて知った」「名前だけは知っていた」等だったのに対し、49人中46人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれていました。同アンケートでの今回講演の「わかりやすさ」「満足度」は5段階評価でいずれも4.6と学生に高評価だったのも一因だったのでは、と考えています。

ミライ研では、より学生に近い世代の幹事が集まる青技交と連携・協力して、今後も「技術士を知ろう!」を企画・運営し、技術士の社会的認知度の向上、理科系教育現場の支援に向けた活動を行っていきたいと考えています。